

高校合同文化祭の総括

令和4年度から令和7年度を
振り返って

目的

本事業は、八尾市芸術文化推進基本計画のリーディングプロジェクトとして、以下の2点を目的に実施している。

1. 学校の枠を超えた交流

市内6校が参加し、他校との交流による刺激や協働から、新たな創作活動を育む。

2. 発表機会の創出

若者世代が、家族や友人だけでなく、広く一般市民の前で発表する場を作る。

開催内容の変遷

本事業の特徴の一つに、イベントの「顔」であるタイトルを、コモンズサポーター（実行委員の高校生）による会議で一から考案・決定している点にある。

⇒言葉を選ぶプロセス自体が、自分たちのイベントであるという「当事者意識」を醸成

年度	タイトル	開催内容	会場
令和4年度 (2022)	高校生の大美術展	<ul style="list-style-type: none">・プレ企画として実施・作品展示のみ実施。・市内4校（金光八尾、八尾北、八尾翠翔、山本）でスタート	<ul style="list-style-type: none">・プリズムホール
令和5年度 (2023)	集まれ!!!アーティストのたまごたち	<ul style="list-style-type: none">・本格始動・市内全6校（金光八尾、八尾、八尾北、八尾支援、八尾翠翔、山本）が参加。・展示に加え、ダンス・軽音などの実演系を実施。・合同パフォーマンスの実施。	<ul style="list-style-type: none">・プリズムホール・シルキーホール・茶吉庵・地域共生空間つながり
令和6年度 (2024)	はじける!!!私たちの青い才能	<ul style="list-style-type: none">・市内全6校が参加。・一部で中学生も参加。・商業施設（アリオ）や温浴施設⇒日常への浸透・公式Instagram開設。	<ul style="list-style-type: none">・プリズムホール・シルキーホール・アリオ八尾（光町スクエア）・八尾おゆば・オンライン展覧会
令和7年度 (2025)	NEXT STAGE 一人ひとりが輝く場所	<ul style="list-style-type: none">・市内全6校が参加。・一部で中学生も参加。・他校の生徒とのコラボバンドによる軽音楽のライブ演奏。・八尾支援学校のダンスパフォーマンス実施。	<ul style="list-style-type: none">・プリズムホール・シルキーホール・アリオ八尾（レッドコート）・イズミヤ八尾ショッピングセンター

アンケート結果の推移

3年間のアンケート結果の推移から、満足度は既に飽和に近い高水準（96%）にある。今後は「知らなかった層」をどう取り込むかがさらなる発展の鍵となる。

指標	令和5年度 (n=243)	令和6年度 (n=126)	令和7年度 (n=102)	分析
満足度 (非常に満足、満足)	91%	96%	96%	極めて高い水準で推移。
継続意向 (今後も参加・鑑賞したい)	—	89%	84%	8割以上が継続を希望。市民にとって定着を望まれる事業へと成長。
コモンズの認知度 (よく知っている)	9%	4%	20%	令和7年度に急増。継続開催により、リピーター（卒業生やその保護者、継続参加校の教員など）が増え、プロジェクトを理解する層が増えた。
コモンズ未認知層 (聞いたことがない)	60%	65%	58%	約6割で高止まり。一般市民への浸透に伸びしろあり。
事業を知るきっかけのうち、口コミの割合 (家族・友人・知人に聞いて)	47%	73%	49%	来場動機の中では、群を抜いて高い割合。一般市民への浸透に伸びしろあり。
10代以下の来場比率	54%	52%	54%	出演者の同世代が多く来場。
身近に芸術文化を感じる (R7新設)	—	—	91%	商業施設等での開催による「敷居の低下」、「日常の中の芸術」へ変化。

持続可能な取り組みにするために

高校生主体のプロジェクトにおける最大の課題は、「3年でメンバーが完全に入れ替わること」である。本事業ではこの課題を以下の2点で対応している。

1. 事務局によるインフラの維持

行政手続き、会場調整、SNS運営、データ分析等の「実務基盤」を事務局が担うことで、生徒が入れ替わっても、蓄積されたノウハウがリセットされない環境を担保している。

2. 卒業生（OB）の積極的な関わり

令和6年度（2名）、令和7年度（4名）と、卒業後も「コモンズサポーター」として関わり続けるOBが存在。

コモンズサポーター（高校生実行委員）の声

1. 「学校の壁」を越えた交流の喜び（R4～R5）

当初は、近隣にありながら接点のなかった他校生との出会いが、最大の刺激となっていた。

- 「近場なのに今まで交流する機会がなかった。話してみると話しやすかった。」（R4）
- 「他校のレベルの高さに驚いた。ライバル心が芽生え、もっとすごいものを作ろうと思った。」（R4）
- 「書道部とダンス部という真逆の部活でコラボするのは不安だったけど、高校生にしかできない最高の思い出になった。」（R5）



コモンズサポーター（高校生実行委員）の声

2. 「自分たちで創る」運営側の視点（R5～R6）

イベント名（タイトル）を自分たちで決めるプロセスを経て、運営側の視点が芽生え始めた。

• 【タイトルの決定】

「一番大変だったのはタイトル『アーティストのたまごたち』を決めること。初対面の人と話し合い、自分の意見を出せたことで成長できたと感じた。」（R5）

• 【実務への挑戦】

「コモンズサポーター会議の司会をサポーターで行う。」（R6）

「コモンズサポーターの公式インスタグラムはインプレッションやいいねからも見てくれている人が多かったと思うので、紹介動画などを撮影して広報していくことは引き続き行っていく。」（R6）

• 【課題の発見】

「広報が身内（家族・友人）にしか届いていない。もっと一般の人に見てもらうための掲示が必要。」（R6）

コモンズサポーター（高校生実行委員）の声

3. 「組織運営」と「次世代への継承」への視点（R7）

4年目には、組織としての持続性や、他の団体との連携を考える段階に到達した。

• 【共創の実感】

「各校共同で看板を制作したことで、学校の枠を超えた本当の協力ができた。」（R7）

• 【マネジメントの意識】

「運営の負担が一部の人に偏っている。もっとみんなで分担できる組織にしたい。」（R7）

• 【プロデュースの発想】

「他団体（エコフェス等）と協力して、もっとお客さんを集めたい。スタンプラリーでまちを回ってもらうのはどうか。」

（R7）

• 【後輩へのメッセージ】

「楽しみながら物事を進めていくという雰囲気良かった。この取り組みをなくさないように頑張ってもらいたい。」

（R7）

八尾市芸術文化推進基本計画の成果

本事業は、八尾市芸術文化推進基本計画に掲げられた主要な施策を具現化する中核事業として、次の成果を上げている。

1. 芸術文化につながる機会の提供（施策②）

ホールだけでなく、アリオ八尾やイズミヤ等の商業施設、温浴施設（八尾おゆば）を開催会場としたことで、普段芸術になじみのない層へ「偶然の出会い」を提供した。

【市民の声：文化の「敷居」が下がった瞬間】

- 「太鼓の音につられて家からふらふらと出てきました。みごとな音でした。家から観覧に行きやすい場所で行ったです」
- 「買い物のついでにふと立ち寄りました。高校生の真っ直ぐな表現に、沈んでいた気持ちがパッと明るくなりました」
- 「近距離で迫力ある演奏を見れてよかった。家から観覧に行きやすい場所で行った。」

八尾市芸術文化推進基本計画の成果

2. 自由な芸術文化活動のための環境の整備（施策④）

発表や創作活動ができる新たな場所の掘り起こしにつなげた。

【市民の声】

- 「ライブハウスの音響や照明が本格的で、高校生たちがプロのアーティストのように輝いて見えました」
- 「普段あまり交流する機会のない小さい子どもたちや年配の方たちと、長時間将棋を交えていろんな話のできたので、とても有意義な時間を過ごせました。」



八尾市芸術文化推進基本計画の成果

3. 芸術文化を通じた子どもの育み（施策⑤）

- **主体性の育成：** イベントタイトルを生徒自らが考案・決定するプロセスを重視。「大人が作った舞台」ではなく「自分たちの想いを大人の力を借りて実現する舞台」へと、生徒の意識をプロデューサー視点まで引き上げた。
- **学校の枠を超えた交流：** 市内全6校が参加し、合同パフォーマンスや共同制作（看板）を実施。他校のレベルに刺激を受け、さらなる成長を促す場となった。
- **世代を超えた絆：** 高校3年間で入れ替わる「世代交代の壁」を、卒業後も関わり続けるOB（令和7年度は4名）が伴走することで克服。知恵と熱意が次世代へ直接継承される「育みのサイクル」ができつつある。

【市民の声】

- 「違う学校の子たちが一つのステージを作り上げる姿は非常にパワフルで、見ているこちらまで元気をもらいました」
- 「しっかりと高校生が一生懸命組み立てたのが分かるいいパフォーマンスでした」
- 「支援学校の子たちの自由な表現に感動。高校生たちが学校の枠を超えてお互いを認め合っている様子が素晴らしいです」

八尾市芸術文化推進基本計画の成果

4. 芸術文化によるまちの魅力の発信（施策⑦）

SNS等を活用し、市内外へイベントの情報を発信することで、特に若い世代の芸術文化への関心を高めることができた。

- 高校合同文化祭公式Instagram：R6.10.8から運用開始。フォロワー数431人（R8.3.25現在）



今後の展望

- **一般市民への浸透**

コモンズサポーターによる公式インスタグラムの発信など、八尾の高校生の熱量をより強く発信していく方法を検討する。

- **高校合同文化祭以外の出演機会の提供**

高校合同文化祭に限らず、他のイベントへの出演について声かけを行っており、出演機会の提供につなげている。

(例) 八尾おゆばフェス、大阪エヴェッサの試合前パフォーマンス等

- **ネットワークの拡大**

出演機会が広がることにより、パフォーマンスが目に残ればさらなる出演依頼につながることも考えられるなど、高校合同文化祭以外にもネットワークが広がっていく。

- **やおうえるかむコモンズ推進会議への参加**

高校合同文化祭とまちかどライブクリエイションの出演や企画運営について、希望する人ができるだけ関われる体制で実施するようにしている。

今後、よりお互いの交流が進む仕組み作りを検討していく。例えば、コモンズサポーターの中で希望者がいれば、やおうえるかむコモンズ推進会議のメンバーに勧誘するなど、引き続き、芸術文化活動に関わる人材の発掘、育成に努める。